

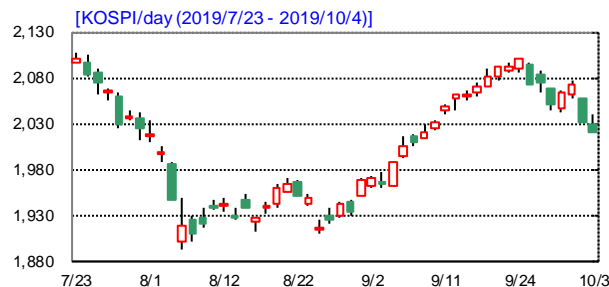


【韓国】 総合指数は 1.4%安と続落、経済指標悪化と北朝鮮弾道ミサイルを嫌気

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 1.4%安と続落。10月3日は建国記念日のため休場となり、4日間の取引だった。週明け9月30日と翌1日は割安感に注目する買いが入って連騰。主要国の金融政策が緩和に傾くと期待も根強かった。ただ、2日以降は経済指標の悪化が嫌気され、一転して軟調な展開。9月の消費者物価指数（CPI）が統計開始以来初めて前年同月を下回った。1日発表の米製造業景況感指数も10年3カ月ぶりの低水準となり、米中対立の長期化による世界景気の減速が改めて意識された。2日朝に北朝鮮が弾道ミサイルを発射したことも投資家心理を悪化させた。4日の終値は9月9日以来ほぼ1カ月ぶりの安値となった。今週は神経質な展開か。10-11日に米中が閣僚級貿易協議を開くため見送り気分が広がりそうだ。

▼指数チャート

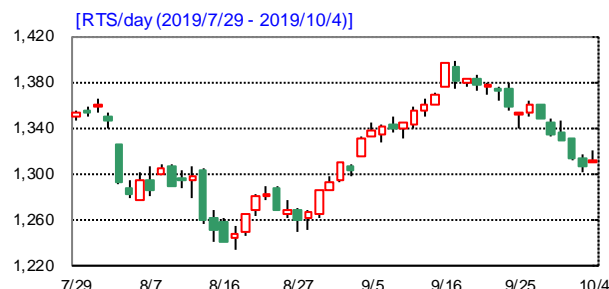


【ロシア】 RTS 指数は 2.7%安と続落、今週は原油相場次第で買い戻しが優勢か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で 2.7%安と続落。原油安や米国による新たな経済制裁の発表が嫌気され、軟調な値動きが続いた。週明け9月30日は原油相場の下落のほか、米大統領選挙の妨害を理由に米国が新たな経済制裁を発表したことが嫌気され、RTS 指数は前営業日比 1.0%下落した。その後も軟調な米経済指標や原油相場の下げ幅拡大を受けて指数は前週の9月27日から3日まで5日続落。3日には1カ月ぶりの安値を更新した。4日はルーブル高・ドル安を受けて 0.4%高と反発し、週間の下げ幅を縮めた。個別銘柄ではノヴァテク（3.6%安）、ガズプロム（3.2%安）の資源・エネルギー株や、ズベルバンク（2.3%安）などの金融株の下落が指数を押し下げた。今週はルーブルや原油の反発が予想され、ロシア株も買い戻しが優勢か。

▼指数チャート



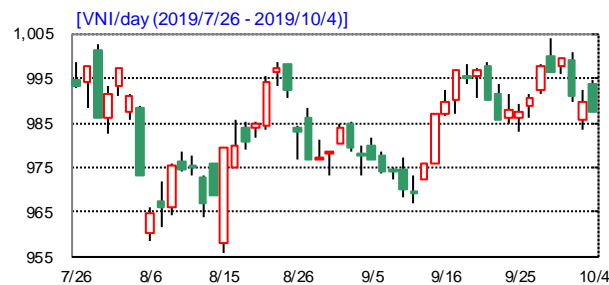
【ベトナム】 ベトナム指数は 1.0%安と 4 週ぶり反落、今週は売り優勢の流れが継

続か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 1.0%安と 4 週ぶりに反落。経済指標の悪化を受けて米国の景気後退懸念が強まり、エネルギー株や不動産株の大型株が下げを主導した。9月30日はVN 指数が一時2カ月ぶりに 1000 ポイントを上回り、2日も再度 1000 ポイントに乗せたが、心理的節目の 1000 ポイントが上値抵抗となったほか、米9月ISM 製造業景況感指数が10年ぶりの水準に悪化し、景気後退懸念が強まったことで週後半は売りに押された。個別銘柄ではNY 原油先物が週間で 5.5%安となり、原油安を嫌気したペトロベトナム・ガス、ベトナム石油総会社が4%超下落したほか、サイゴンビール・アルコール飲料（3.2%安）、ピンググループ（1.5%安）などの下落が指数を押し下げた。今週は世界的景気後退懸念を背景に、売り優勢の流れが継続か。

▼指数チャート



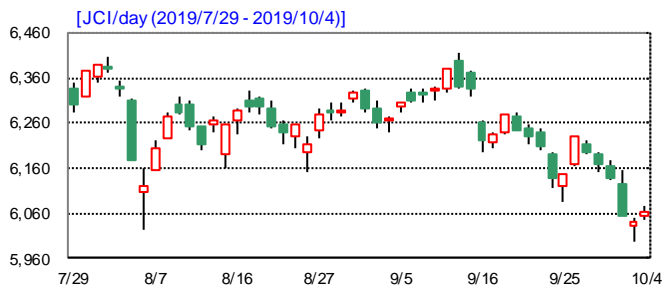


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 2.2%安、米製造業景況感の悪化を嫌気

ジャカルタ総合指数は週間で 2.2%安と 3 週続落。9 月月間では 2.5%安。先週は外部要因が指数を押し下げた。週初の 30 日は、前週末にトランプ米政権が同国での中国株の上場廃止を検討していると報じられ、NY ダウが下落した影響で金融株を中心に売り優勢の展開となり、指数は続落。2 日は前日に発表された 9 月の米 ISM 製造業景況感指数が 47.8 と 10 年ぶりの低水準に落ち込んだことで、世界経済の先行き不透明感が広がり、指数は前日から 1.3%下落した。3 日まで 5 営業日続落した後、4 日は素材関連株と金融株が買い戻され、反発して引けている。今週は 9 日に 8 月の小売売上高が発表される予定。

▼指数チャート

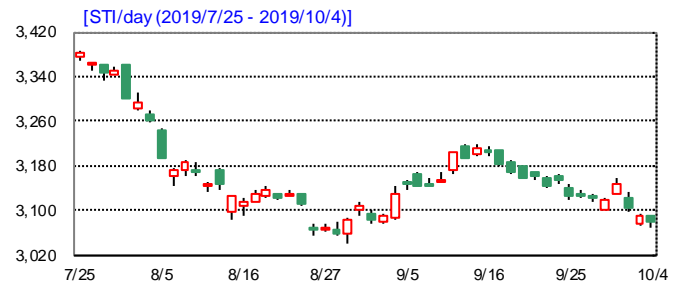


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】スレーツタイムズ指数は 1.5%安、今週は 11 日に 7-9 月期の GDP 速報値発表

スレーツタイムズ指数は週間で 1.5%安と 3 週続落。9 月月間では 0.4%高。先週は後半の続落が痛手だった。週初の 30 日まで 4 営業日続落で、1 日は都市開発庁 (URA) が発表した 7-9 月期の民間住宅価格指数が前期比 0.9%上昇した効果で反発。ただ、2 日は前日の NY ダウが反落した流れで前日比 1.4%下落すると、3 日は米国の EU に対する報復関税を WTO が承認し、世界経済の減速懸念が高まった影響で続落した。4 日は前日の取引終了後に発表された 9 月の製造業 PMI が 49.5 と前月の 49.9 を下回り、売り優勢で引けた。今週は 11 日に 7-9 月期の GDP 速報値と 8 月の小売売上高が発表される予定。

▼指数チャート

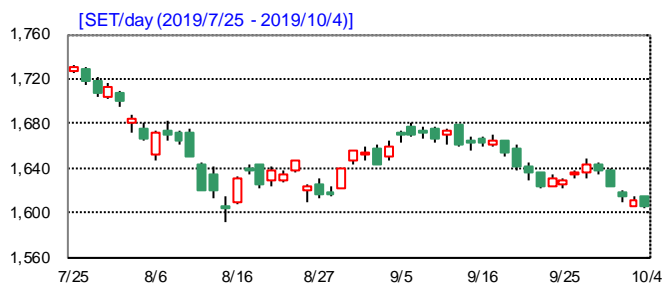


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 2.3%安、景気減速懸念の広がりで 5 日続落

SET 指数は週間で 2.3%安と反落。9 月月間では 1.1%安。先週は週初から 5 日続落とさえない値動きが続いた。30 日は中央銀行総裁が、経済状況がさらに悪化すれば金融政策を見直す用意があると発言し、景気減速懸念が広がった影響で売り優勢の展開。1 日は海運業界団体が今年の輸出の見通しについて、7 月時点での前年比 1.0%減から 1.5%減に下方修正したことを嫌気して売られた。その後も買い材料に乏しくじりじりと下値を広げ、4 日には終値で 7 週間ぶりの安値を更新して引けている。今週は国内の重要イベントが少なく、10-11 日にワシントンで開催される米中閣僚級協議などの外部要因が焦点になる。

▼指数チャート

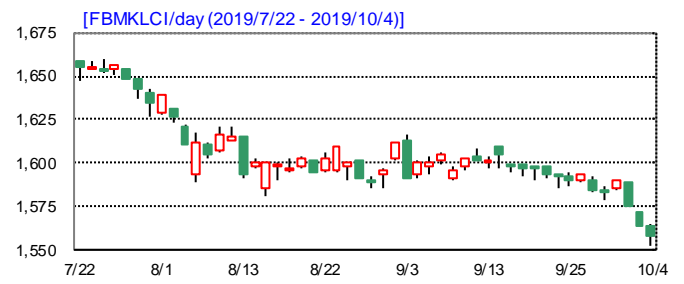


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.7%安、今週は 11 日に 20 年度政府予算案発表

クアラルンプール総合指数は週間で 1.7%安と 5 週続落。9 月月間では 1.8%安。先週は軟調な値動きが続いた。週初の 30 日は小幅に続落したが、1 日は前日の NY ダウが上昇した流れを引き継ぎ、3 営業日ぶりに反発。ただ、2 日に反落すると、その後も売り優勢の展開が続き、4 日まで 3 日続落して引けた。4 日に発表された 8 月の貿易統計は輸出が前年同月比 0.8%減、輸入が 12.5%減とともに市場予想から下振れている。今週は 11 日に 20 年度政府予算案と 8 月の鉱工業生産が発表される予定。前週末に発表された 9 月の米雇用統計で失業率が 3.5%と 50 年ぶりの低水準となり、NY ダウが続伸したことは好材料。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。